

# JAIH NEWS LETTER

日本国際保健医療学会ニュースレター

5  
2022  
Vol. 2 May.

国際保健の働き方 UpToDate

[インタビュー企画]

国立国際医療研究センター国際協力局

本田 真梨

教えて！海外フィールド研究

[座談会企画]

ネパール・ルワンダ×ミャンマー×インドネシア

有馬 弘晃

我妻 奎太

渋谷 文子

遠くに来たものだと思います

山本 太郎

長崎大学熱帯医学研究所  
(国際保健学分野)  
教授

遠くに来たものだ  
と思いません



山本 太郎 長崎大学熱帯医学研究所・教授（国際保健学分野）  
(兼務) 热帯医学ミュージアム館長 (兼務) 人道支援室長

大学院生としてヒト・レトロウイルス感染機構の解明をテーマに研究を始めて、三〇有余年が経過しました。私がウイルス学研究をしていた1990年頃は、エイズが世界の公衆衛生上の課題でありながらも治療薬がなく（本当に多くの知人が、治療薬がないというだけで亡くなりました）、手探りで対策を模索していた時期でした。

そんなこともあって、実験室での基礎研究と同時に現場で対策を行いたいと思い、国際保健学の大学院に再度進学したのが、私のその後の長い国際保健との付き合いの始まりとなりました。その後、ジンバブエ（アフリカ）やハイチ（そこでは内戦下に取り残されたり）でエイズの研究と対策にあたったり、また、ハーバード大学やコネル大学に留学して人文社会学や人類学の面白さに気づいたり、外務省の課長補佐として国際保健の政策策定にあたりながら感染症を見たりしてきました。そのどれもが今の「私」を作っています。本当に遠くまで來たものです。

現在の関心は、「人類の環境適応と健康」だったり、歴史のなかで人々が感染症にどのように対処してきたか、また感染症が社会にどのような影響を与えたかという人文学的研究（文学や絵画や音楽も含めて）だったりします。

これから国際保健をやりたいと思う（特に学生の）方は、ぜひ、さまざまな経験をしてください。

P02 Short Essay

遠くに来たものだと思います

山本 太郎

長崎大学熱帯医学研究所  
国際保健学分野 教授

P04 座談会企画

教えて！海外フィールド研究

有馬 弘晃  
我妻 奎太  
渋谷 文子

長崎大学熱帯医学研究所環境医学部門  
国際保健学分野 助教  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
国際保健学分野・ミャンマー感染症研究拠点  
琉球大学大学院保健学研究科国際地域保健学分野  
博士後期課程

P08 インタビュー企画

国際保健の働き方 UpToDate

本田 真梨

国立国際医療研究センター  
国際医療協力局

P10 Scenery of My journey

本当の豊かさって

～あなた方はバングラデシュの人より 50 倍幸せですか～

P12 クロスワードパズル

今月のパズル

P13 学会からのお知らせ

Tropical Medicine and Health

英文誌認定のお知らせ

P14 Voice

国際保健の相談箱

編集部からのお知らせ

編集後記

# 教えて！海外フ

## ネパール・ルワンダ

### 自己紹介をお願いします！

**有馬**：長崎大学の熱帯学研究所国際保健学分野の有馬と申します。臨床検査技師で、大学は青森県の弘前大学に行っていました。卒業研究で寄生虫学の教室に配属されて、卒研と修士の3年間は寄生虫の研究をしていました。もう少し広い視野で国際保健というものを見たいと考え、今いる熱帯医学研究所の国際保健学分野の方に大学博士課程の大学院生としてきました。昨年卒業して、同じく国際保健学分野で研究を続けています。

**我妻**：所属は新潟大学の国際保健学分野の博士課程です。兼任して日本学術振興会(JSPS)特別研究員もやっております。もともとは数理統計学を専門にしていましたが、今は公衆衛生学を専門としています。特にその中でも感染症疫学に特化した研究を行っています。新潟大学にはAMED事業のミャンマー感染症拠点があり、ミャンマーのデータやいろいろな公表情報を活用させて頂きながら研究をしています。



▲小児健診（順番を待つ子どもたち）

**渋谷**：私の所属は琉球大学大学院保健学研究科国際地域保健学分野の博士後期課程1年です。私の職種は看護師で、看護師資格を取得後に、都内の大学病院の救命救急センターで6年間勤務をしていました。その後、JICA青年海外協力隊の看護師隊員として、西アフリカのブルキナファソで学校保健活動を行いました。アフリカでの活動後は、琉球大学大学院保健学研究科の博士前期課程へ進学し、卒業後に同研究室の博士後期課程へ進学しました。

### 海外のフィールドデータ入手した際のご経験について教えてください！

**有馬**：僕が携わっている研究の一つにチベット高地民を対象とした研究があります。実際に2回ほど、ネパールの北部のチベット高地民が生活しているムスタンという地域に行ってフィールド調査をしました。僕は臨床検査技師なので、サンプルをどのように採り、どうやって保管するかということを非常に考えました。現地に行く前には、最悪の状況を想定していかないといけません。例えば、ムスタンは標高が約3700メートルもあるため、電気はあるけれど、もちろん途中で切れますし、遠心機は全然回せないこともあります。情報は前もって収集し、ガソリンを使って発電できるジェネレータなどを車に積んで持っていました。また、現地には採血経験のない人たちもたくさんいて、針を見るだけすごく怖がるんですよね。そういう方達からの採血時に気を付けたのは、現地の言葉を使ったコミュニケーションでした。挨拶や「袖をまくってください」という言葉を現地語で言うだけで不安が和らぐこともありました。

**我妻**：私は新潟大学のミャンマー感染症拠点で研究をしています。呼吸器ウイルス感染症がどのように地域で広がり、どんな伝播経路を辿るのかを調べる研究がテーマの一つです。ミャンマーでは、インフルエンザ、RSウイルス、COVID-19を扱っています。データ入手に関して特に厳しかったことは、全く現地に行けない状態なので、実臨床の検体を新潟大学の方に輸送してもらわなければ、解析ができないということでした。僕が研究に入っている時、ちょうどCOVID-19の流行が重なってしまったので、フィールドにいけない状況下で向こうの人たちとやり取りをしていかに研究を展開していくかを特に考えなくてはなりませんでし



# フィールド研究

## ミャンマー

た。加えて、ミャンマーの政変の影響で現地の状況が混乱していたという問題もありました。渡航ができない上に、政府によりネットワークが遮断され、現地の人たちがオンラインツールを使えず、その条件下で調整しなくてはいけませんでした。

**渋谷**：私のテーマは包括的性教育に関する教師の葛藤を克服するプロセスを明らかにするための質的研究でした。オンラインでなんとかインタビューデータを収集できないかと考え、限られた先行研究を基にオンラインのプロトコルを作成し、オンラインインタビューを実施しました。低中所得国の方ではインターネットやITスキルが全て普及しているというわけではないので、研究対象者はどのような方法であればオンラインインタビューに参加しやすいのかを配慮したデータ収集の方法を検討することがとても難しかったです。



## インドネシア

現地の人と協力する上で留意されたことを教えてください！

**有馬**：ルワンダでの研究で驚いたのは、現地の看護師さんが採血を、皮膚に針だけを刺してそこから垂れてくる血液を採血管で回収するというやり方で行なっていたことですね。日本だとコンタミしてしまうのでそのようなことはしないですよね。現地の当たり前とは違う行為を研究のために指導することは難しかったです。

**我妻**：有馬先生がおっしゃってくださったところに僕も近い経験があつて、現地のプロトコルを、僕たちが日本の当たり前と思っているものにどうフィックスできるか、現地の人と話をして日本のやり方を伝えることが難しかったなと思います。特にコロナの研究では、逐次時系列に変わっていくミャンマーの状況を理解しながらプロトコルを作っていくかなければならず、また、プロトコルの変化を現場の医師や看護師に伝えて理解を得ながら進めていくのも大変でした。

**渋谷**：私が現地調査で留意したことはインドネシアの宗教や文化的な背景に配慮したインタビューを実施することです。特にイスラム教の背景が強く、男性優位の社会が根強く残っている現状があります。ですので、インタビューの際には男女別にした方がいいのかなど事前に確認をとりました。また、私の研究は包括的性教育に関するものでしたので、性に関する内容を話す際に日本とは異なるインドネシアの背景を考慮してインタビューすることが難しかったなと感じました。



▲調査したツアランの寺院（ネパール高地）

海外フィールドワークだからこそ楽しさとやりがいについて教えてください！

**有馬**：日本での研究では、データ解析や実験からデータを得て、それを元に論文を書くのですが、フィールドワークには、サンプルを取るところから自分が携わるという点にすごくやりがいがあります。最初から携わっていると本当に流れが全部わかっているので、データ解析の際の安心感があります。現地に行ってやるっていうのは、研究をしていく上で、自分の中でやりやすさもありますし、現地で生活をしている人たちを知ることもすごく楽しいし、良い経験になりますね。

**我妻**：僕の場合は、海外に実際に行けない分、例えばオンラインを通して、現地の人たちの声を聞き、本当に向こうの状況を理解するというところが一つの楽しみだと思います。オンライン会議をしていると、フォーマルな話以外にプライベートなど、ざっくばらんな話ができる機会が得られたのは、海外と研究を共同で行う上での楽しさでした。

# 教えて！ 海外フィールド研究

渋谷：私も、我妻先生と同じように実際に海外のフィールドでの調査を行えませんでした。このコロナ禍でどのようにして実際にデータをとるのかというプロトコル作成過程は大変ではありましたが、研究計画を立て、実際にオンラインでデータを取れたことはとてもやりがいがあったなと思っています

**渋谷先生は、オンラインで集めたデータの妥当性に関して工夫されたことはありますか？**

渋谷：質的研究の妥当性の確保に関しては、研究計画を立てる段階でかなり苦労しました。実際にZoomのインタビューに同席をして、対象者の教師が話すインドネシア語をリアルタイムで英語に翻訳するソフトを使いました。翻訳ソフトを使いつつ、研究参加者の教師の表情や動作を見ながら情報を収集するように努力をしました。分析の過程で、私は実際にフィールドには行けなかったので、琉球大学の指導教員とインドネシアのマタラム大学医学部のカウンターパートと定期的にディスカッションすることで、質的なインタビューデータの解釈の妥当性を高める努力をしました。通訳を介さずにできることはオンラインだからこそできる利点だと思います。



▲オンラインインタビューの様子

**有村先生、我妻先生、オンラインを使った研究ならではの利点を教えてください！**

有馬：現地に行くとなるとやはり渡航費や研究費がすごくかかるので、データの取り直しがすごく難しいんですね。その点、オンラインだと追加の調査をしやすいという点があります。今COVID-19の状況なので、今後確実に必要になっていく手法ではあると自分も思っていて、どんどん自分でも取り入れて幅を広げていかないとなっています。

我妻：有馬先生が言われているように、オンラインだと臨機応変にいろんなことの対応ができやすいと思います。オンラインで何人も参加して活発に議論ができるることはかなり強みなのかなと思います。いろんな人と話が即座にでき、調整もしやすい面がかなり明白になってきたのではないかなど感じています。

**先生方の今後の展望や教えてください！**

有馬：私はまだ助教になったばかりの若手ですが、してみたい研究はたくさんあります。研究をするためには研究費が必要で、その研究費を取るために論文を書いて研究業績を出さないといけないということをぐるぐる考えておりますが、あれもやりたいこれもやりたいという楽しみでいっぱいです。フィールドでの経験をどう生かしていくのかは、初めて対象とする地域の準備をするときには、自分の行った国のことと思い返し、何が必要で、どんなデータの取り方が必要か、何を前もって準

備しておかなくてはいけないかななど、今までの経験を活かして研究をやっていけたらいいなと思います。

我妻：ミャンマーは、いわゆる感染症の空白地帯と言われていて、感染症の治験などについてはわかっていないことが多いのが現状です。なので、例えば、ミャンマーにおける感染症がどのように広がっているのか、流行動態がどうなっているのかということを明らかにしていきたいというのが第一になります。基礎研究の分野で働く上では、間接的にしか救えない命もあると思うのですが、少しでも感染症の危機から現地の人たちを救うことに貢献することを大前提の目標として今後も研究を進めていきたいと思っています。

渋谷：修士研究で学校保健に関する政策の改善、特にコロナ禍で今の状況に応じた学校保健政策を策定する必要があると感じました。博士研究では、太平洋島嶼国を対象とした学校保健政策について調査をして、ポストコロナ社会に対応した政策を策定するための提言を目標とした研究を計画しています。実際に太平洋島嶼国には渡航できそうな状況ですので、実際のフィールドワークを楽しみにしています。一方で、全ての国に渡航できる状況ではないので、修士研究で活用したオンライン形式を活用してハイブリッドで臨機応変にフィールド研究をしていきたいと思っています。

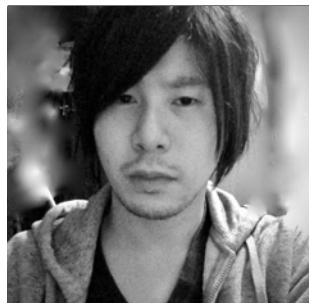
**本日はご協力  
ありがとうございました！**



### 有馬弘晃先生

長崎大学  
熱帯医学研究所  
環境医学部門  
国際保健学分野  
助教

弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻卒業後、同大学大学院保健学研究科保健学専攻生体機能科学領域に進学。2017年から長崎大学大学院医歯薬総合研究科新興感染症病態制御系専攻に進学し、現在は長崎大学熱帯医学研究所環境医学部門国際保健学分野ティームアトラック助教。



### 我妻奎太先生

新潟大学大学院  
医歯学総合研究科  
国際保健学分野・  
ミャンマー感染症研究拠点  
日本学術振興会特別研究員

新潟大学大学院医歯学総合研究科医科学専攻修了後、現在は同大学院地域疾病制御医学専攻医学博士課程に在籍中。2022年度より日本学術振興会特別研究員として勤務。感染症疫学を中心に、感染症の疾病負担と伝播ダイナミクスを調査し、制御手段の使用を最適化する研究を目指す。これまで、COVID-19、インフルエンザ、RSウイルスなどの呼吸器ウイルス感染症の伝播動態の研究を実施。



### 渋谷文子先生

琉球大学大学院  
保健学研究科  
国際地域保健学分野  
博士後期課程 1年

看護師資格取得後、日本大学医学部附属板橋病院の救命救急センターに6年間勤務。2017年よりJICA青年海外協力隊の看護師隊員として、西アフリカのブルキナファソにおいて学校保健活動に取り組んだ。2020年4月より、琉球大学大学院保健学研究科国際地域保健学分野博士前期課程へ入学し、2022年3月卒業。2022年4月より、同研究室の博士後期課程へ進学し、現在に至る。

キーワードをピックアップ！

## 海外フィールド研究とは？

フィールド研究では、研究テーマに合致する国や地域を実際に訪ね、現地調査を行い、課題に取り組みます。そのため現地におけるデータの取得から解析、解釈、考察まで研究者本人が主体となって行います。特に、現地の価値観を考慮し、現地の人々に寄り添いながら研究を進めていく様子は、海外フィールド研究の魅力の一つです。

今回は日本国内の公衆衛生系大学院で研究をされている、3名の方々にお集まりいただきました。海外での現地調査のご様子、またコロナ禍で渡航制限がある中のフィールド調査について詳しくお話を聞いております！

HONDA Mari

# 本田 真梨

Expert, Project for Reinforcement of Maternal and Newborn Healthcare in Senegal Phase 3 JICA  
 Technical officer, Bureau of International Health Cooperation, National Centre for Global Health and Medicine

JICA セネガル母子保健サービス改善プロジェクト (PRESSMN) フェーズ 3 専門家

国立国際医療研究センター国際医療協力局

現在、JICA セネガル母子保健サービス改善プロジェクトのフェーズ 3 専門家としてご活躍なさっている本田真梨先生に現地でのプロジェクトやお仕事内容、セネガルの生活についてお伺いしました。また、先生のキャリアや国際保健分野を目指す学生に向けてのメッセージもいただき、大変興味深いお話をされました。

## 本田先生の キャリア

- 2011 名古屋市立大学卒業
- 2011-2013 国立国際医療研究センター病院 初期研修医
- 2013-2016 国立国際医療研究センター病院 小児科国際臨床レジデント
- 2017-2022 国立国際医療研究センター国際医療協力局
- 2017-2018 ロンドン大学衛生学熱帯医学大学院修士課程終了
- 2020-2021 産休
- 2021-2022 現職

Mon	午前：資料作成・メール対応 午後：直接介入州の州医務局カウンターパートと電話打ち合わせ
Tue	午前：活動結果について他専門家やナショナルスタッフと協議 午後：資料作成・メール対応
Wed	午前：プロジェクト内定例会議 午後：カウンターパートとの研修資料の打ち合わせ準備
Thu	午前：保健省母子保健局カウンターパートとの研修資料の打ち合わせ 午後：資料作成・メール対応 (勤務終了後) フランス語講義受講
Fri	午前：資料作成・メール対応 午後：資料作成・メール対応
Sat	1 週間分の食料品の買い出しと作り置き・家族と外食
Sun	フランス語レッスン

適宜プロジェクト内で相談しながら自分の業務を進めます

週に 1 回、全員で活動報告や計画を確認します。

活動準備は保健省や州医務局のカウンターパートと一緒に行います。

## 本田先生の ある 1 週間

## About works

**Q** どのようなお仕事をされているのか教えてください

**A** 私の従事しているプロジェクトは、セネガルで妊産婦・新生児が尊重されたケアを拡大・定着させるために、各州内で州医務局、医療施設、保健人材養成校、大学等が連携した体制を構築することを目指しています。私は主に州医務局の能力強化に関わる活動を担当しており、現在は妊産婦・新生児が尊重されたケアの研修とスーパービジョンの技術支援をしています。

**Q** そのお仕事を選んだきっかけを教えてください

**A** 小児科医であり、周産期に関心があったことから、本邦所属先のNCGM国際医療協力局でこれまで母子保健に関する仕事を多く担当しており、プロジェクトの前半を担当していた同僚の後任として推薦されました。開発途上国の現場での仕事を希望しており、妊産婦と新生児が受けるケアの質の向上を目指すプロジェクトなら、自身のこれまでの経験を生かせると考え、引き受けました。

**Q** お仕事のやりがいや楽しさ、大変な事を教えてください

**A** 現地のカウンターパートと二人三脚で「妊産婦・新生児が尊重されたケア」の概念の普及に取り組むというプロジェクトのあり方に大きな魅力を感じており、アプローチに日々悩みながらも、やりがいを持って取り組んでいます。一番苦労しているのはフランス語です。特に直接介入州との打ち合わせは電話が中心となるため難しく、ナショナルスタッフに助けてもらっています。また初めてのアフリカ勤務ということもあり、仕事の進め方などで文化の違いに戸惑うことが多いです。



## About life

**Q** 現地での暮らしに関して教えてください。

**A** ダカールは都会なので大きなスーパーもたくさんあり、比較的なんでも手に入ります。交通渋滞がひどく、通勤や買い物に時間がかかるのが難点です。私が着任して以降は乾期のため砂埃がひどく、室内でも机の上にすぐ砂が積もるのに驚きました。多くのレストランがデリバリーにも対応しているのは助かるのですが、住所が大雑把なため、配達員がいつも道に迷ってしまいます。

**Q** 普段の食事はどうされていますか

**A** 普段の食事は自炊中心ですが、セネガル料理は日本人の口に合うものが多く、美味しいいただいています。代表的なセネガル料理であり、2021年12月にユネスコ無形文化遺産入りしたチエブジェン（魚と野菜の炊き込みご飯）は、セネガル北部のサンルイ州が発祥とされており、今年1月に研修実施のためにサンルイ州に出張した際にもいただきました。

**Q** 休日は何をされていますか？

**A** 土曜日はフランス系大型スーパー、野菜を扱う小さいマルシェ、肉屋さん、アジア系スーパー、など、複数のお店を回って買い出しし、その後は家族で外食するのが定番です。特に海沿いの景色のいいレストランで美味しい料理を食べると、リフレッシュできます。日曜日にはフランス語のレッスンを受けており、語学勉強に時間を使うことが多いです。休日は子どもと過ごす時間も確保するようにしています。



## 国際保健を目指す人へアドバイス

国際保健の仕事には、国際機関、二国間協力、NGO、研究、ソーシャルビジネス等、様々なアプローチがあります。広くアンテナを張って、どういうものが自分に向いているか考え、またもし可能であればインターンやアルバイトなどを通じて、試してみると良いと思います。

私は医学から国際保健に入っていることもあります。相手のコンテクストを理解するための人文社会学的な基礎知識が足りない、と感じることがあります。比較的時間のある学生のうちに、政治、経済、社会、文化、宗教等、幅広く教養を深めることをお勧めします。



本田 真梨先生  
国立国際医療研究センター国際医療協力局

# Scenery of My Journey



▲むき出しの教科書と一本のペンを握りしめて長い長いあぜ道を歩いて学校に向かう子どもたち。

## Title

### 本当の豊かさって

～あなた方はバングラデシュの人より 50 倍幸せですか～

## Author

東京女子医科大学医学部医学科 6 年

森田智子



▲電気もなく窓から入る光の中で「A, B, C, …」と英語の授業。

2014年夏、高校1年生の私はバングラデシュを訪れた。北東部に位置するネトロコナは、日本の田園風景を思わせる。水田のあぜ道にヤギや牛が歩く様子は人と車が溢れる首都ダッカとは違い、時の流れもゆるやかなようだ。学校に通う子どもたちはきらきらとしたまなざしで勉強に取り組んでいる。

いつも笑顔で、どんなことにも「オシュビダナイ、オシュビダナイ（問題ない、問題ない）」と明るく、親や兄弟と協力し合い生活をしていた。ある日、現地スタッフからこう尋ねられた。「日本はバングラデシュの50倍豊かな国と言われていますが、あなた方はバングラデシュの人より50倍幸せですか？」

その時、わたしは答えられなかった。本当の豊かさ、幸せとは…。忘れがたい2週間だった。

（写真左：むき出しの教科書と一本のペンを握りしめて長い長いあぜ道を歩いて学校に向かう子どもたち。写真右：電気もなく窓から入る光の中で「A, B, C, …」と英語の授業。）

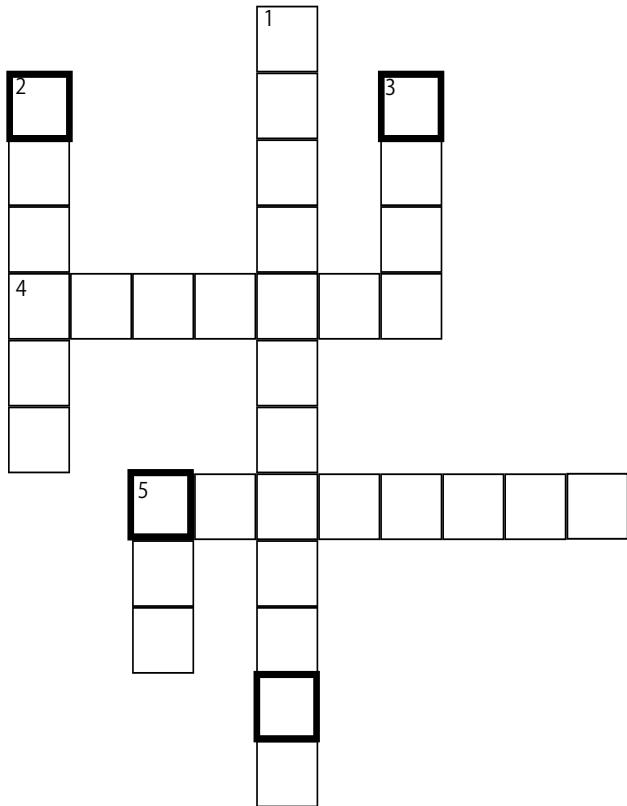
# 今月のパズル

… 楽しく学ぼう！国際保健 …

## 【国際保健クロスワード】

太線枠内の文字を並べ替えてできる単語を導き出そう！問題の答えは全て英単語またはアルファベットの略称です。

あなたは正解に辿り着ける？



## 縦のヒント

- 三大感染症の一つ。WHOは2035年までに蔓延状況を終息させることを目指している。
- Iron Deficiency ○○○○○○：単一の栄養欠乏症の中では最も多く報告されている栄養障害。
- 「国際協力機構」の略称。
- このウイルスに感染するとT細胞数が減少し、日和見感染症を合併する。

## 横のヒント

- 三大感染症の一つ。ハマダラカによって媒介される。
- 宣言：ヒトを対象とする医学研究の倫理原則。

答え：

右のQRコードまたは<https://forms.gle/sp4GUSRDRMHT9kTk6>より解答をご応募下さい。

応募者のうち正解された方は、次号でお名前（匿名可）等を掲載いたします！



ご応募用 QR

解答期限：2022年7月31日

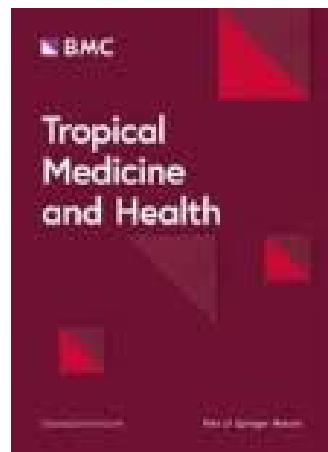
正解して君の名前をここに載せよう！

皆様のご応募をお待ちしています

# Tropical Medicine and Health 英文誌認定のお知らせ

日本国際保健医療学会は、日本熱帯医学会の学会誌 Tropical Medicine and Health 誌（出版社 Nature Springer）を、英文学会誌として認定し、両学会で同誌の編集を行うこととなりました。学会員の積極的な投稿をお願いします。

Reserch Article	原著論文
Case Report	医学的知見に貢献し、教育的価値、あるいは臨床診療や診断・予後のアプローチの変更などを示唆する報告
Letter to the Editor	研究者コミュニティにとって特に興味深いが、標準的な研究論文としては適さない簡単な報告
Review	特定の研究分野における最近の知見をまとめた報告
Short Report	小規模臨床試験、ケースシリーズや、既報の研究の研究に追加するなどした研究の報告



投稿形式の詳細につきましては、下記の URL もしくは QR コードよりご確認のほどお願いいたします。  
論文掲載料（Article-processing Charges）は下記の通りです。

学会員・・・・1,401 ヨーロ

非学会員・・・・2,032 ヨーロ

学会員割引を受けるためには、投稿の際に「account number」が必要となります。

account number は、学会メーリングリストにてお知らせしております。

ご不明の場合は学会事務局までお問い合わせください。

なお、投稿時に account number が入力されない場合は、学会サポートを受けることが出来ませんのでご注意ください。

また、低所得国の責任著者の論文掲載料は全額免除あるいは 50% 割引となります。投稿時に申請してください。

## Welcome to Tropical Medicine and Health



<https://tropmedhealth.biomedcentral.com/>



## 今号の国際保健の相談箱

### 人生を変えた本や映画を 教えてください！

#### ・黒澤明「生きる」

「生きる」とはパチンコにいったり、酒を飲んだり、自分を楽しませてくれ、快楽の気分を味わってくれる世界に居続けることではない。自分を超えた何者かのために、他者のために、世界のために創造的な活動をすることである。(神馬征峰)

#### ・ローランド・ジョフィ

#### 「シティ・オブ・ジョイ（歓喜の街）」

アフリカで診療したいと思っていた私の肩を押した映画です。こんな強烈な体験を通じて人の人生が変わるんだと感動し、その後自分がアフリカへ飛び込む勇気をもらった名作です。(杉下智彦)

#### 皆様から「質問」を募集中！

#### 国際保健の第一線で活躍されている先生 にあなたの「質問」を聞いていきます！

『国際保健の質問箱』は、読者の皆様同士でつくる相談コーナーです！国際保健に関わるキャリア、研究、趣味、プライベートなど、皆様のご相談を、編集部と一緒に考えましょう！次号のご相談・ご回答の期限は

**2022年7月31日(日)**

皆様のご応募・ご協力お待ちしております！

あなたの**相談**は  
こちらから！



ご応募用 QR

## 編集部からのお知らせ

### 国際保健医療学会のニュースレターを 一緒に作ってくださる方を募集中

ニュースレターは1月、5月、9月の年3回発行中！約3ヶ月かけて、1つの号を作成しています。ミーティングは全てzoom・slackを使用して行います。時給制のため、フレキシブルに働いていただくことが可能です。学生や大学院生の方はもちろん、学部卒後五年以内の方でしたら、分野を問わず大歓迎！幅広い分野の方々からのご応募をお待ちしています。国際保健分野の最前線でご活躍されている方々とお話をすることで国際保健への知見・ネットワークを広げるだけでなく、ニュースレター作成に関わる多種多様なバックグラウンドを持つメンバーから日々刺激を受けながらお仕事しませんか。

#### 応募資格

- ・将来国際保健・熱帯医学の分野に従事する志を持っている方
- ・学生や大学院生の方、学部卒後五年以内の方
- ・年間3回のうち年間1回以上ご参加できる方

編集部一同、あなたの応募をお待ちしております！ぜひ、国際保健医療学会ニュースレターと一緒に盛り上げていきましょう！



ご応募用 QR



## 編集後記

～今号のニュースレター編集に参加した学生のひとこと編集後記～

山崎里紗 長崎大学医学部医学科 6年

リニューアルされたニュースレターの発行2回目となりました！今回も、幅広い層の方に楽しんでもらえると学生一同嬉しいです！今後ともよろしくお願いします！

竹田早希 東京女子医科大学医学部医学科 6年

今号全体のまとめ役と座談会を担当させていただきました。今回の座談会は、読者の皆様に海外の気分を味わってもらえるよう願いを込めて作成しました。海外渡航のできない中で先生方がどのようにしてフィールド研究を行ったのかご注目ください！！

安藤新人

前回デザインしたものを参考に、今回は他のメンバーにもデザインをお願いしてみました！少しずつではありますが、デザイン技術の引き継ぎをできればと思います！今後どう変わっていくのか乞うご期待です！！

城戸初音 熊本大学医学部医学科 6年

インタビュー企画で伺った本田先生のお話がとても素敵で、感染状況が落ち着いたらぜひ実際にお会いしたいと思いを馳せつつ、記事を執筆しました。あなたもセネガルの世界を覗いてみてください！

森田智子 東京女子医科大学医学部医学科 6年

インタビューや座談会に関わさせていただいた他、Scenery of My Journey を担当いたしました！高校1年生でバングラデシュを訪れた際に撮影した写真を掲載しましたので、ぜひ現地の様子を想像しながらお読みいただけると嬉しいです！

上杉優佳 東京大学医学部医学科 5年

クイズ、座談会、双方向などちよこちよこ関わらせていただきました。クイズ企画は今回初となりますので、皆さんに楽しんでいただけましたら幸いです！

福田 佳那子 山口大学医学部医学科 5年

国際保健を今後担う学生、もしくは既に担っている先生方の人生を変えた本や映画についてお聞きしました。なかなか本を読む機会を失っている私ですが、たまには医学書以外に触れてみたいなあと本屋さんに週末通ってみました♪みなさまもぜひ気分転換に映画や本に触れてみては？

無相遊月 横浜市立大学医学部医学科 3年

今回も前回に引き続き座談会企画に携わらせていただき、コロナ禍や政変など困難な状況の中でもめげず、公衆衛生や国際保健の研究を続けていらっしゃる先生方のお話をお聞きしとても感動しました。私もいつかそんな風になれるよう、医学だけでなく幅広い分野においてこれからも学びを深めていきたいです！

井戸 萌 東京女子医科大学医学部医学科 2年

5月号から、ニュースレターの作成に関わることとなりました。「教えて！世界のフィールド研究」のコーナーでは、お話を伺う大学院・先生の検討、打診メールのやり取り、座談会当日の運営、全ての段階に、やりがいを感じました。特に、先生方からコロナ禍における海外フィールド研究の実情を伺った経験は忘れないでください。クロスワードパズルは、大変勉強になる内容となっておりますので、ぜひ、お楽しみください！

揺れ動く世界の中で 見失われる人々と

そのひとりひとりの手をとろうとする人々について考える

## 第37回 日本国際保健医療学会学術大会

"ひとり"は   
—草の根と意思決定者をつなぐ— どこにいるか

2022年11月19日 土 20日 日

ハイブリッド開催（現地開催＋オンライン）

会 場 | 愛知県立大学 長久手キャンパス

大会長 | 柳澤 理子（愛知県立大学看護学部）

演題募集期間 | 2022年6月6日(月)～8月22日(月)

<https://jaih37.yupia.net/>



運営事務局 株式会社ユピア 〒456-0005 名古屋市熱田区池内町3-21 E-mail : jaih37@yupia.net

発行元

**jaih** 一般社団法人 日本国際保健医療学会  
Japan Association for International Health

日本国際保健医療学会事務局

〒162-8655  
東京都新宿区戸山1-21-1  
国立国際医療研究センター国際医療協力局内  
E-Mail : jaihg-office@umin.ac.jp  
HP : <https://jaih.jp/>

各種ご応募はこちらから！

